

チュニジアでのコルク生産

井 上 千恵子

はじめに

チュニジアは、アフリカ大陸の北端の中央に位置している。北は地中海、西はアルジェリア、東はリビアにはさまれて、くさびを打ち付けたようにサハラ砂漠に延びている。

チュニジアの国土面積は約 16.4 万 km²、このうち森林面積はわずか 56 万 ha、その割合は 3.4% にすぎない。この数字が示すわずかな森林は、主に北部地域に残っている。北部地域は、11 月から 3 月に降雨が集中する地中海性気候で、主要樹種はフランスカイガンショウ (*Pinus pinaster*)、イタリアカサマツ (*Pinus pinea*) とコルクガシ (*Quercus suber*) である。しかし、林業と認められるのは、ワインなどの栓や断熱ボードなどに加工されるコルクを供給するコルクガシ林のみである。コルクの加工品はその大半が輸出され、貴重な外貨獲得資源となっている。

チュニジアでは珍しく海と山がある地中海に面した北西部地域の小さな町タバルカに 1990 年 1 月より 2 年間青年海外協力隊員として滞在した。この間、コルクガシ林およびコルクの生産の実態を見ることができた。日本では、栓や断熱ボードなどコルクの加工品をよく目にはするが、その供給元のコルクガシについてはなじみがない。ほとんど知られていないチュニジアの森林とコルク生産について、見聞きしたことを報告したい。

コルクガシ林

コルクガシはポルトガル、スペインを中心に、フランス、イタリアからチュニジア、アルジェリア、モロッコにかけての地中海沿岸地方に分布する。

INOUE, Chieko : Cork Production in Tunisia
京都大学農学部

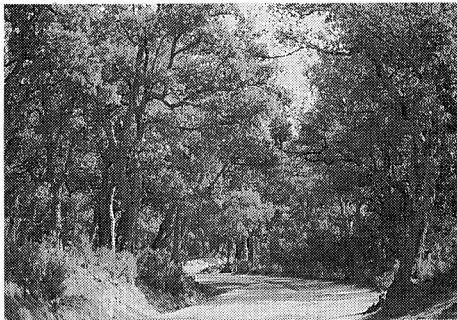


写真-1 コルクガシの中心地である北西部地域の Ain draham でのコルクガシの林

チュニジアのコルクガシ林(写真-1)は、地中海沿岸ぞいに標高約 1,200 m までの範囲、とくに年降水量が 700~1,500 mm あるアルジェリアから続く北西部地域を中心に、地中海沿岸地域に見られる。いずれもコルクガシの天然林であるが、チュニジアの農業省の統計によれば、その面積はおよそ 18 万 ha に及ぶとされている。コルクガシ林は国有林であるために、

コルク樹皮をかってに剥ぐことは禁止されている。いずれの地域でもコルクガシを最優占種とし、この中にカシの一種 (*Quercus faginea*) が点在したり、一部では自生のフランスカイガンショウが残っている。樹高は 6~15 m で、樹形の外見や葉の形はウバメガシに似ている。普通 ha 当たり 200~400 本程度の密度である。下層にはエリカ (*Erica arborea*)、ミルト (*Myrtus communis*)、乳香 (*Pistacia lentiscus*) などの灌木が繁茂している。

この山岳地域ではウシ、ヒツジ、ヤギの林内放牧も行われている。このため一部のコルクガシ林内では過放牧による土壤侵食が見られ、また、山火事、農耕地への転換、薪炭材の採取などさまざまな理由により、ここでも森林の減少が進んでいる。

コルクの収穫から加工まで

チュニジアでは 11 月から 3 月が雨季、5 月から 9 月までが乾季であるが、コルクの収穫は 6 月から 7 月にかけて行われる。乾季に入ってまもないこの時期がコルクガシの樹皮を剥がしやすいそうである。コルクガシ林でのコルクの収穫は、樹皮の厚さが 2.5~3.5 cm になると行われる。剥皮後 12 年でほぼこの厚さになるので、12 年周期で剥皮・収穫が繰り返される。コルク層の剥皮方法は簡単で、剥皮用の斧で樹高 2 m くらいの高さから、縦方向に 1 か所あるいは 2 か所の切れ目を入れる(写真-2)。これは幹の太さによって異なり、大木になると 3~4 か所の切れ目を入れなければならない。しかし、胸高直径が 20 cm 以下のコルクガシはコルクの採取を行わない。次に、幹の周囲に沿

って上部と根元近くに切れ目を入れる。垂直方向の切れ目に斧の柄をあてがいコルク層を内皮から、また、形を崩さないように上または下からコルクを剥がしていく（写真-3）。コルクを剥ぎ取った後に垂直方向に入れた切れ目の傷が残るが（写真-4），これはコルク層の生長とともに幾分大きな裂け目になるため、次の収穫の際に切れ目を入れやすくなる。

コルクの剥皮作業に携わる労働者は、近くの村に住む男性達である。このほかに、枝打ちや間伐作業の単発的な仕事が営林署から依頼され、仕事口のない山間部に住む人々にとっては賃金報酬のある貴重な仕事となっている。

一般にコルクの収穫量は年間、ha当たり 50~500 kg とされているが、収穫量は年によって大きな差がある。たとえば、1990 年度の収穫量は 8 千 t で、前年度と比べると 3 千 t、割合にして 37% も収量が落ちている。1983 年の 1 万 1 千 t が、その翌年 1984 年は 8 千 t に、さらに 1985 年は 7.4 千 t にまで減少するなど、年変動が非常に大きい。

収穫されたコルクは、すべて国営のコルク加工会社 (Société Nationale du Liège) にトラックで運ばれる。国内に三つのコルク加工工場があり、一つは国内用と輸出用、との二つは輸出向けの加工生産を請け負っている。工場に運ばれたコルクは、最初に用途に応じた簡単な品質分けが行われ、次に 120°C の熱水で 75 分洗浄し、四方の端をカットし大まかな形を整える。再度こ

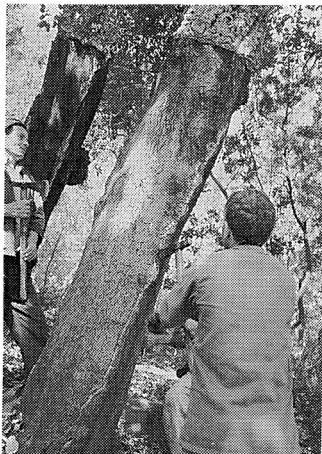


写真-2-①

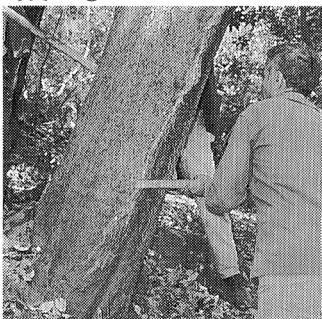


写真-2-②



写真-2-③ コルクの剥皮作業手順



写真-3 桸を抜き取った残りのコルク。これらは床や壁用のコルクシートに再利用

の段階でも品質分けがなされる。最後に圧縮機でプレスされる。すべてのコルクがこの過程を経て、各用途に応じた加工が行われる。たとえば、プレスされた後のコルク板はさらに4 cm 幅にカットされ、カットされた面を上下にして、そこから栓が抜かれる（写真-3）。これらの栓を抜き取った残りは、細かく刻んで圧縮し、壁や床用などのコルクシートに加工される。

Virgin Cork（雄皮）と呼ばれる初穫のコルクは、亀裂があり、堅く弾力性も少なく、さらに壊れやすいので、ほとんどは断熱ボードに利用される。

コルクはほとんどが加工品の形で輸出されるが、コルク生産量のうち約60%がイタリア、フランス、ドイツなどに輸出され、40%が国内消費される。主な加工品は先に述べたようにピンなどの栓、熱処理した断熱ボード、コルクシート、細かい粒状のもの、コルク板などである。

最後に、本文の「コルクの生産」について執筆する際に、チュニジアのJICA事務所や協力隊員にお願いして資料や文献を得ることができた。十分なコルクに関する紹介はできなかったが、なじみの薄いコルクガシの存在を知ってもらえばと思っている。

〔参考文献〕 1) Ministère de l' Agriculture, Direction des Forêts : Forêts et Conservation des Eaux et du Sol en Tunisie. (1977). 2) Ministère de l' Agriculture, Direction Général des Forêts: Le Rapport de la Société Nationale du Liège. (1991).